モニタリング結果報告書
（令和７年度）

１．施設概要

施設名		神奈川県立伊勢原射撃場		
	所在地	伊勢原市上粕屋2380番地		
	サイトＵＲＬ	https://www.isehara-shooting.jp/		
	根拠条例	神奈川県立伊勢原射撃場条例		
	設置目的(設置時期)	県民に射撃に関する知識の習得及び技術の向上の場を提供し、もって県民のスポーツの振興に寄与するため（平成９年５月）		
指定管理者名		一般社団法人神奈川県射撃協会		
指定期間		Ｒ５．４．１～Ｒ10．３．31 （2023年）　（2028年）	施設所管課 （事務所）	スポーツ課

２．総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
射撃教習及び技能講習の実施などを通じて、概ね事業計画書の内容どおりの取組を実施している。利用状況の評価がＡ評価、利用者の満足度の評価がＳ評価、収支状況の評価がＢ評価となったことから、令和７年度の３項目評価についてはＡ評価とした。 収支状況の評価がＢ評価となった理由は、ライフル射撃場の収入は増加したものの、クレー射撃場の収入が減少したことが要因となっている。 今後は、利用者の安全管理の徹底と将来の射撃競技人口の裾野の拡大に資するような施設の管理運営を引き続き行うことに加え、クレー射撃の選手育成拠点としての強みを最大限に活かした事業展開のほか、ライフル射撃においても競技大会や強化合宿の誘致を積極的に行うことにより、引き続き、更なる利用拡大とサービスの向上に努めてもらいたい。
＜各項目の詳細説明＞ ◆管理運営等の状況 射撃教室の開催、射撃教習並びに技能講習の実施を通じて、概ね事業計画の内容どおりの取組を実施した。中でも施設の安全管理については、利用者に対する適切な指導やサポートを徹底することにより、利用者が安全、安心かつ快適に利用できる環境整備に注力するなど、事故防止に向けた施設運営に取り組んでいる。 ◆利用状況 施設のサービス向上や射撃教室によるスキルアップ、ビームライフル体験会の実施等により再来場が増え、利用者数が目標達成率108.5%となり、Ａ評価となった。利用状況については、前年度対比では全体利用者数が3.7%のプラスとなっている。令和６年度末のライフル設備の更新や、指定管理者による大会や団体練習の積極的な誘致により、ライフル射撃場の利用者が増加している。 ◆利用者の満足度 利用者の意見を業務に反映した結果、９月と３月に実施したアンケート調査では上位２段階の回答割合が97.1%となり、Ｓ評価となった。アンケートの実施にあたっては、利用者に幅広く回答してもらえるよう呼びかけを行うなど指定管理者は様々な工夫をしているが、回収率が67.6%とそれほど高くないため、日頃から利用者とのコミュニケーションを積極的に図るよう指導した。 ◆収支状況 支出は、施設の維持管理や設備の修繕等に係る人件費が増となる一方で、燃料の節減や運営の効率化によって需用費が減となり、前年度対比で95.4%となった。また、収入においては、ライフル射撃場の収入は増加したものの、クレー射撃場の収入が減少し、結果として、収入合計では前年度対比で101.4%となった。その結果、収支差額は前年度から回復したが、収支比率は97.5%となり、Ｂ評価となった。 ◆苦情・要望等 寄せられた苦情・要望等について、適切な対応に努めた。 ◆事故・不祥事等 事故などは確認されていないが、引き続き、職員による安全な施設運営に努める。 ◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。 ◆その他 特になし

３．３項目評価の結果

３項目評価	利用状況 (項目６参照)	利用者の満足度 (項目７参照)	収支状況 (項目８参照)	３項目評価とは、３つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう。 Ｓ：極めて良好 Ａ：良好 Ｂ：一部改善が必要 Ｃ：抜本的な改善が必要
A	A	S	B	

４．定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現地調査等 の実施状況	実 施 頻 度	現地調査等の内容
	随時現場確認を実施 （毎月１回程度）	指定管理者から提出された書類の記載内容と現地の状況を照合した結果、適切に指定管理業務等が履行されていることを確認した。
意見交換等 の実施状況	実 施 頻 度	意見交換等の内容
	随時意見交換を実施 （２か月に１回程度）	県と指定管理者との間で意見交換を実施し、施設の管理運営上の課題等を情報共有した。
随時ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞにおける 指導・改善勧告等の 有無	有 ・ 無	指導・改善勧告等の内容

５．管理運営等の状況

〔　指定管理業務　〕

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるｺﾒﾝﾄ
射撃競技者の育成、新たな射撃競技者の開拓、射撃競技に対する一般県民への普及啓発活動	銃砲所持許可更新時に必要な技能講習や許可取得希望者向けの射撃教習を開催した。 若年層の競技者向けに、高校生のビームライフル大会等を開催した。 指定管理者の関係団体の機関誌に施設記事の掲載を働きかけたほか、各メディアの取材依頼に積極的に応じた。また、ホームページ、ＳＮＳを通じた場内の空き情報の提供等を行った。	射撃場利用者のスキルアップ、競技者としての育成に貢献している。また、利用者の再来場につなげ、競技人口の拡大に取り組むことができている。
施設の維持管理	維持管理計画を策定し計画的な修繕を行った。一部の管理業務は外部に委託し、特に、安全管理や危機管理に係る重要な業務は、近距離業者を活用して実施した。	安全・安心を確保し、快適に利用できる状態を維持できている。
事故防止等の安全性の確保	射撃指導員による巡回、競技ルールの指導を実施した。また、競技会の主催者等に対し、銃の安全操作、保管等の指導を実施した。	施設利用者、競技会の主催者及び参加者にルール等の指導を徹底し、安全を確保できている。

〔　参考：自主事業　〕

事業計画の主な内容	実施状況等
射撃の知識習得及び安全に対する意識の啓蒙を目的に初・中級者向け射撃教室を実施。	計39回・155人参加 （クレー　：27回、115人 ライフル：12回、　40人）

６．利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110％以上　Ａ：100％以上～110％未満　Ｂ：85％以上～100％未満　Ｃ：85％未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
A	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	22,947	21,973	22,780
対前年度比		95.8%	103.7%
目　標　値	21,000	21,000	21,000
目標達成率	109.3%	104.6%	108.5%

目標値の設定根拠：　　指定管理者収支計画書に基づき設定

利用者数の算出方法（対象）：　　指定管理者にて利用者数をカウント

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
クレー射撃場の利用者数はやや横ばいである一方、ライフル射撃においてはここ数年、大会を継続的に誘致できており、ライフル射撃場の利用者増につながっている。

７．利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	年２回、９月と３月に調査	９月と３月に実施 設備の清潔な管理や従業員の丁寧な対応等が、利用者からの高評価という結果に表れていると思われる。

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　該当する印象にチェックを付けてください（トータル的な満足度）。

実施した調査の配布方法　利用者に直接配布　回収数／配布数　202　／　299　＝　67.6%

配布(サンプル)対象　施設利用者

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	100	95	5	1	201	夏場の空調等、設備に係る不満
回答率	49.8%	47.3%	2.5%	0.5%		
前年度の回答数	84	88	8	1	181	
前年度回答率	46.4%	48.6%	4.4%	0.6%		
回答率の対前年度比	107.2%	97.2%	56.3%	90.0%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
基本マナーマニュアルの周知徹底を図り、新設・丁寧な対応に努めた結果、昨年度比で「満足」の割合が上昇した。
また、今年度より平均値での記載に変更したため、昨年度の数字は一致していない。
なお、無記入があり、回収数と回答数は一致しない。

８．収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が０円の施設≫ 収入合計／支出合計の比率が、S（優良）：105%以上　A（良好）：100%～105%未満 B（概ね計画どおりの収支状況である）：85%～100%未満　C（収支比率に15%を超えるマイナスが生じている）：85%未満
B	

〔　指定管理業務　〕　（単位:千円）

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	0	76,192	48,935	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	125,127	125,127	0	
	決算	0	74,288	42,040	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	116,328	123,336	△7,008	94.32%
前年度	当初予算	0	76,192	48,935	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	125,127	125,127	0	
	決算	0	71,512	40,080	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	111,592	121,658	△10,066	91.73%
令和７年度	当初予算	0	76,192	48,935	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	125,127	125,127	0	
	決算	2,351	73,427	37,402	ｸﾚｰﾋﾟｼﾞｮﾝ、標的等(ﾗｲﾌﾙ)、技能講習・射撃教習	113,180	116,083	△2,903	97.50%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数　（単位:千円）

令和７年度 /　1,147　　前年度 /　1,637　　前々年度 /　727

＜備 考＞
指定管理料の決算額「2,351千円」は、物価高騰による光熱費及び直接人件費に係る県の費用負担を指す。
射撃人口が大幅に増加しない中で、民間や公設の他の射撃場と価格競争が生じており、収支の改善には構造的課題がある。

９．苦情・要望等　　□ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	苦情	1 件	車イス利用者用の扉が開錠されておらず、その際の電話対応も利用者の心証を害するものだった。	後日、手紙を通じ、謝罪した。
		件		
事業内容		件		
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等　☑ 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。